

都内訪日客初の1000万人超え 昨年

消費も最高 1兆円台

五輪へ受け入れ体制拡充

東京都は26日、2015年に都内を訪れた外国人旅行者が前年比34%増の1189万人と、初めて1千万人を超えたと発表した。外国人の飲食や宿泊などの消費額も42%の大幅増で1兆1150億円と過去最高を更新した。20年開催の五輪を控え訪日客は一段と増える見込みで、都内でも多言語対応など受け入れ体制の拡充が課題となる。



急増する外国人旅行者の受け入れ体制の拡充が課題となる (台東区)

外国人旅行者の内訳は宿泊客が36%増の901万人、都内に宿泊しない日帰り客が29%増の288万人だった。1人当たりの平均消費額は宿泊客が10万~12万台、日帰り客が約3万円だった。東京都を訪れる外国人旅行者は東日本大震災のあった11年に31%減の409万人まで落ち込んだが、12年以降は4年連続で20~30%台の伸びが続く。中期的な円安傾向が追い風となっているほか、中国や東南アジア向けのビザ発給要件の大幅緩和、消費免税制度の拡充などの効果もある。都は13年9月の五輪招致決定を弾みに、海外に向けた東京のPRや外国人の受け入れ環境の整備に力を注いできた。ただ言葉の壁や宿泊施設の不足

足などは依然として大きな課題として残る。昨年は飲食店や宿泊施設向けに英語・中国語・韓国語の3カ国語による24時間対応の電話通訳サービスを開始。外国人客との意思疎通に困ったときに使えるようにした。特に外国語ができるスタッフが少ない、小規模な施設の対応力の向上を狙う。

街中で困っている外国人を見かけた際に、声をかけて道案内などをする「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成も今年度から本格化する。鉄道駅などの案内板を、多言語や絵文字併記にしてわかりやすくする改修や、無料Wi-Fi(ワイファイ)を利用しやすくするハード整備も進んでいる。

外国人客の増加を見越し、都内ではホテルの新設や改修も相次ぐ。プリンスホテルは7月、旧赤坂プリンスホテルの跡地に高級ホテルを開業す

る。三井不動産も9月、ホテルオークラ東京は19年開業を目指す本館を「三井ガーデンホテル京橋」を開設する。建て替え中だ。